

キャラクター名 巴 三(tomoe mitabi)	プレイヤー名
------------------------------	--------

シンドローム	キュマイラ キュマイラ	ワークス	企業エージェントB	カヴァー	
オプション		年齢	19	性別	♀
覚醒	素体	衝動	吸血	初期侵食率	33%
出自	天涯孤独	経験	危険な仕事	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	6		0			6	行動値	3
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	3
精神	0		1			1	戦闘移動	10
社会	2		0			2	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	11	4	射撃	1		RC	1		交渉		
回避			知覚	2		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: web	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ナイフ	白兵	6r+14	0	2		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ナイフ					
要人への貸し					
SSランク					
最大財産P:	6	残り財産P:			

合計装甲:	0	合計回避:	0
-------	---	-------	---

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
頂の証	P	N		
巴一(tomoe hajime)	P	感謝	N	憐憫
神城早月	P	感服	N	不安
	P		N	
	P		N	
	P		N	
	P		N	

最大財産P:	6	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ターゲットロック	5	3	set	視界	単体	自動		
効果: 対象のみを含む攻撃の攻+Lv*3								
攻性変色	5	3	set	視界	単体	自動	limit	
効果: ターゲットロックの効果+Lv*5, 暴走, 神の落し子								
シルフィードレム	1	3						
効果: 使用直前対象: 範(選)化, 1回/sr								
狩りの統率者	2	4	aut	至近	範選	自動		
効果: ターゲットロックの効果を対象にも与える								
鋭敏感覚	★							
効果:								
猫の瞳	★							
効果:								
獣の直感	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

かつて北条建彦が中心となり神城化学工業でのレネゲイド研究、その黎明期に行われた計画の一つ。未知が過ぎるレネゲイドという存在を解明するために、彼らが欲したものは、莫大なビックデータを管理できる存在、それもAIなどは比べ物にならないほど意思疎通の可能な存在。即ち情報処理に著しく特化したオーヴァード、まさしくスーパーコンピューターと人間が一体化したような超人を創造しようとした。現代科学において人間の情報処理は脳だけに行われるのではなく、全身が関与していることがすでに示唆されている。神城化学工業は、その背景を根拠に、逆説的に全身の神経を思考・計算に用いることに特化させれば、より情報処理能力が高いオーヴァードが生まれるのではないかと考えた。ようやくシンドロームによる区別という概念が出てきたような時代、実験室レベルでさえもレネゲイドを意図したシンドロームへ分化させるという考えがそもそもなかった頃の話だ。そんな技術的未熟さにも関わらず、神城グループの科学力を結集させ、全身の神経に、情報処理能力を高める(と判断された)レネゲイドウイルスを感染させた試験管ベイビーを生み出した。しかし成長した実験体の結果は、端的に言ってしまうと、失敗に終わった。神経に感染したレネゲイドは確かに神経の数・出力を共に著しく増大させた。しかし、その性質は脳神経ではなく、運動神経を始めとした筋肉に直結する部分であり、更に現代風に言い換えればノイマンシンドロームではなく、キュマイラシンドロームのオーヴァードが生まれたというだけであった。即座に失敗作の烙印を押された実験体は、出来損ないではあるがその戦闘能力から神城グループの暗い暴力案件に使われた。しかし、まだ幼い童が戦闘に駆り出されている光景をUGNが発見し即座に保護、その後神城会長(年齢的に早月の前任)が事態を把握し、監視のもとではあるが、まともな生活を保証された。それは年齢10になった頃であった。義務教育に放り出された彼女が"普通の日常"というものに慣れるのはいつもの課題があった。またおかしな時期に転入してきた常識知らずの子というの、学校という閉鎖社会では孤立を促す要員であり、それに違和感を覚えることも彼女には難しかった。そんな彼女に手を差し伸べてくれたのが、橘渚であった。彼女とのふれあい、日常で、少しずつ人の心というもの学んでいった。しかし、彼女の能力は、そんな日常を送ることさえ困難にした。子供同士のちょっとした遊び、鬼ごこの延長線上、些細な触れ合いのいずれが彼女の幼心-ちょっとした見栄が、その神経の出力を少し上げてしまった。些細な戯れ程度とは言え、今より幼い頃に殺し屋として働いていた彼女のその暴力に耐えられる子供は(大の大人でさえ)、いやしない。橘は大怪我を負い、後遺